

1 単元名 変化する言葉遣いへの接し方

2 単元について

(1) 単元観

国語科の授業は言葉を中心において学習する教科ととらえ、国語科の授業を通して、生徒自身が言葉一つ一つと向き合い、内省できるようにしたい。そして生徒に言葉の力を付け、自分の言葉で表現させたいと願っている。

生徒を取り巻く言語環境に目を向けると、インターネット、スマートフォンに代表されるように意識せずとも言語情報を次々に取り入れることのできる状況にある。そのような言語生活を送る生徒にとって、言葉へのとらえ方や思いは浅く、そして薄くなりがちな傾向にある。そのような観点から、言葉にこだわって追究する単元を構築する。

これまでの学習の中では、サッカー選手の講演を聞き、話の内容や話し方のよい点に学んだり、話し手の言葉から自分のものの考え方を深めるなど、言葉から離れない学習をしてきた。それを踏まえて、課題を解決するための話合いの仕方や、話し合う内容を工夫して言葉に注目させた学習を設定する。

話合いの仕方としては、どの言葉を使えば話合いが効率よく進んだり、課題の解決に向かったりするかを考えさせるために、接続表現の語彙を提示して活用できるようにする。話合いの内容としては、図書館にある言語データをもとに「時間の経過による言葉の変化」に対する自分たちの考えをまとめることを課題として設定する。

単元の進め方は、図書館の本や資料から時間の経過による言葉遣いの変化について考えをまとめる。他者と考えを持ち寄り、聴き合いながらグループごとに課題に対する推論をまとめる。さらに推論をもとに調べた言葉遣いの実際の使われ方について再度図書館の本や資料を検討する。最後に、これまでの学習活動を踏まえて、言葉の変化や接し方をまとめてポスターセッションを行い、単元を振り返る。言語データから目的とする言葉を探したり、言葉遣いの変化を自己の考えと他者と聴き合いながら比較検討したりすることを通して、言葉への向き合い方が実感できるように本単元を設定した。

なお、本単元は学習指導要領A「話すこと・聞くこと」の第3学年(1)エ「話合いが効果的に展開するように進行の仕方を工夫し、課題の解決に向けて互いの考えを生かし合うこと。」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の第3学年イ言葉の特徴やきまりに関する事項(ア)「時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いを理解するとともに、敬語を社会生活の中で適切に使うこと。」をねらいとしている。言語活動例としては、A(2)イ「社会生活の中的话题について、相手を説得するために意見を述べ合うこと。」に対応する。

(2) 生徒の実態

言語に関するアンケート抜粋(平成28年10月) 第3学年1組 生徒39名実施

質問項目	①	②	③	④	⑤
言葉について自分の考えに最も当てはまる番号に丸をつけなさい。 ①見たことがない②見たことがある③使ったことがある④十分使える⑤完全に使える	%	%	%	%	%
微妙	0	0	7.9	18.4	73.7
まみれる	2.6	10.5	42.1	28.9	15.8
ちぐはぐ	0	34.2	34.2	21.1	10.5
しみじみした	0	23.1	30.8	23.1	23.1

上のアンケートで挙げた言葉は、本単元で「時間の経過による言葉の変化」を調べるために実際に提示するものの一部である。アンケートから分かるように、言葉によって完全に使える・使ったことがある・見たことがないなど、生徒のとらえ方は多様である。そこで、今使っている意味と以前に違う意味で使われていた言葉や、以前は使っていたが現在では使わなくなった言葉を見つけ、その言葉にこだわって追究することで、自分の言葉の力を高める意欲をもち、言葉の力が伸びたと実感できるようにしていきたい。

(3) 指導観

本単元は、生徒にとって実生活における言葉との時間の経過による言葉の変化という二つの側面から言葉と向き合う学習である。本単元を通して、国語科の研究の施策①「問い」を具現化するための課題設定・②「考え」を具現化するための思考ツールの活用・③「表現する」を具現化するための複数資料の提

示を指導の手立てとして組み入れる。

- ① 「問い」を具現化するための課題設定では、聴き合うことが必要な課題として「時間の経過による言葉の変化」とし、データとしての言葉のとらえ方と経験としての言葉のとらえ方とのずれから「問い」を導き出していく。
- ② 「考え」を具現化するための思考ツールの活用としては、考えの立場を意識させるために「ベン図」を使用し、自分・他者の同じ意見、異なる意見を整理し、論点を可視化させながら話し合う。併せて話し合う際、接続表現を中心とした思考を促すための表現として、「質問」「補足」「反論」「集約」「分類」「比較」から必要な語彙を設定し、話合いの中で使用することで、思考ツールとともに話合いを活性化させたい。
- ③ 「表現する」を具現化するための手立てとしては、表現する題材を、図書館自体やコーパスを言語データベースとして提示する。図書館の図書やコーパスから複数の資料を探し出し、その情報を比較しながら一般化したり、共通点・相違点に着目し自分の考えをまとめるなど、多角的・多面的に吟味する。資料の言葉と自分の言葉とを比較したり、自分の考えを起こしたりしながら自分の表現に結び付けさせたい。

このような活動を行うことにより、言葉遣いの変化を身近にとらえ、自らの言語感覚を高める姿勢を身に付け、国語力を高めていくことを期待したい。

3 単元の目標

- 時間の経過や世代による言葉や用法の変化に興味をもち、実生活での使い方と重ね合わせて調査しようとする。
(国語への関心・意欲・態度)
- 具体的な言語をもとにした進行により、聴き合いながら話合いを深めることができる。
(話すこと・聞くこと)
- 日常の言語活動を生徒が振り返り、時間の経過により言葉の変化する言葉の傾向を推論を立てることができる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

4 指導と評価計画 (6時間扱い)

時間	学習内容・活動	評価計画				評価規準 【評価方法】	規準を満たすための手立て
		関	話	書	読		
1	データをもとに「ら抜き言葉」に対する言葉遣いの変化をとらえ、学習の見直しをもつ。	○					<ul style="list-style-type: none"> ○ 「ら抜き言葉」の言葉遣いの変化がわかる資料を提示する。
2	アンケートや図書館で見つけた言葉を、図書や資料により、言葉遣いの変化についてまとめる。	○			○		<ul style="list-style-type: none"> ○ 本校図書館だけでなく、様々な資料を準備しておく。
3	課題に対する推論をまとめる。 本時		○				<ul style="list-style-type: none"> ○ 意見をまとめるためにベン図と付箋を使う。 ○ 他班と交流し、意見を再検討する。
4	調べた言葉が、図書館の本や資料でどう変化しているか調べる。	○					<ul style="list-style-type: none"> ○ コーパス「ひまわり」「少納言」を使い、言葉の変化が分かる図書について助言する。
5	課題解決のための話合いや推論をポスターにまとめる。		○				<ul style="list-style-type: none"> ○ 推論をまとめるまでの学習の流れが分かる項目立てを示す。
6	ポスターセッションを行い、単元を振り返る。		○				<ul style="list-style-type: none"> ○ 評価の観点を示し、相互評価に役立てるようにする。

5 本時の指導について

(1) 目標

- 調べた言語データを根拠として使うことにより、意見を比較検討して課題に対する推論をまとめることができる。
(話すこと・聞くこと)

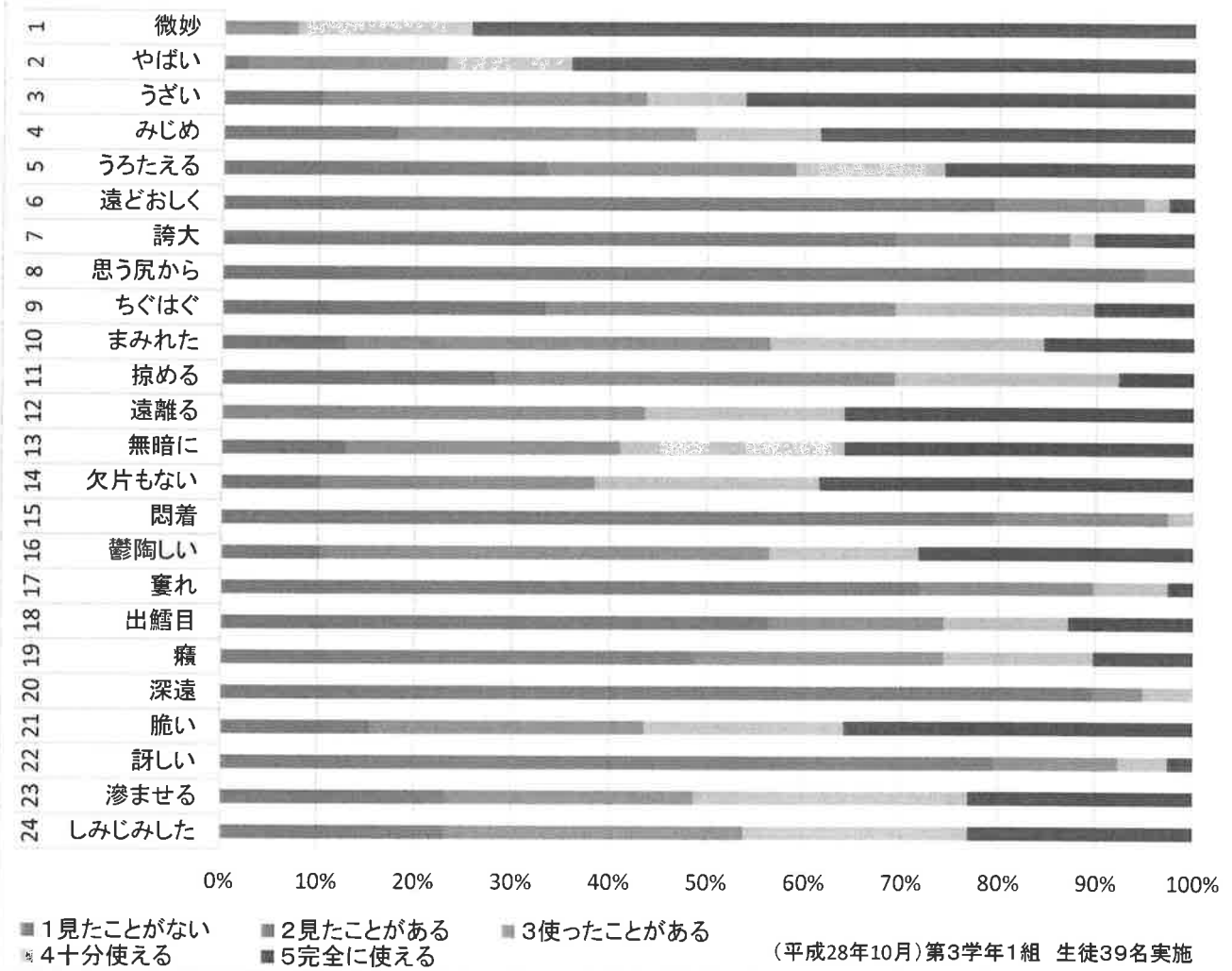
(2) 準備

〈教師〉 ペン図 付箋紙 〈生徒〉 教科書 前時のワークシート 図書 言語データ資料

(3) 展開

学習内容・活動	指導上の留意点・評価
<p>1 本時の課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>時代とともに、言葉遣いが増えた理由について、調べた言葉を生かして推論をまとめよう。</p> </div> <p>2 学習班になり、ペン図から推論をまとめる。</p> <p>(1) 「調べた言葉」と「分かったこと」を紹介し、ペン図に付箋を貼る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意味が分かりにくい言葉は使わなくなった。 ・見たことがない言葉だけど今でも使っている。 ・言葉の使い方が増えている。 <p>(2) 「分かったこと」进行分类する。</p> <p>○ 話し合いの留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・付箋を動かしながら、「分かったこと」の整理をする。 ・話し手に質問を考え、情報を引き出す姿勢で聴く。 <p>(3) 課題への推論をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・代わる言葉が主流になった。 訝しい→疑わしい ・難しいので使わなくなった。 深遠 掠める 癪 ・一つの言葉にたくさんの意味を入れて使うようになった。 やばい…都合が悪い、危ない、楽しい、美しい、素晴らしい ・使う意味が偏った。 微妙…どちらとも言えない→否定的な意味 <p>3 他班との交流を自班の推論に生かす。</p> <p>(1) 他班と交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各班で一人残って推論の説明をし、残りの班員は他班に行き、推論の説明を聴く。 <p>(2) もとの班に戻り、聴き合った内容を推論に生かす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の班で調べていた言葉を、次の時間に自分たちも調べてみよう。 ・自分たちと同じ言葉を使っているけれど、推論が違う。 <p>4 本時の振り返りをする。</p>	<p>○ 本時は、前時に言葉を調べて分かったことを分類し、なぜ言葉の使い方が変化したのかについて帰納的に推論を立てることを確認する。</p> <p>○ 本時の学習の必要性を意識させるために、次時に一致する言葉があるか見つけていくことを確認する。</p> <p>○ 言語データを用意しておき、必要な生徒に提示する。</p> <p>○ 分類した接続表現を示し、接続表現を意識して話し合うように助言する。 「質問」…なぜ どうして なんて 「補足」…併せて 加えて その上 しかも 「反論」…一方 反対に 逆に 「集約」…つまり 要するに 言い換えれば 「分類」…分けると 選別すると 「比較」…比べると 対して など</p> <p>○ 推論がまとまらない班には、言葉の使い方の事例を示す。</p> <p>○ 推論の終わった班は、見つけた図書をさらに読み、言葉の変化の傾向を見つけるように助言する。</p> <p>【評】 調べた言葉から使い方が変化したり、使われなくなった理由をまとめている。 【ペン図・振り返り】</p> <p>○ 空席を示し、生徒を誘導することで、班編成が円滑にできるようにする。</p> <p>○ 他班との交流をすることで、推論の立て方や根拠となった言語データの使い方等、得られた情報を共有し、自分たちの言語データの活用の仕方や推論の立て方に生かすよう助言する。</p> <p>○ 次時の見通しとして、本時での推論をもとに、再度図書や資料から調べた言葉を探すことを伝える。</p>

言語アンケート結果



○青空文庫（ウィキペディアより）

著作権が消滅した作品や著者が許諾した作品のテキストを公開しているインターネット上の電子図書館である[4]。富田倫生、野口英司、八巻美恵、らんむろ・さていの4人が呼びかけ人となって発足した[5]。日本で著作権切れ作品をオンライン公開する動きの先駆者[6]。2015年の年間アクセス数の合計は880万件以上[7]。

収録作品

著者の没後50年を経て日本国内において著作権が消滅した、明治から昭和初期の作品が蔵書の大部分を占める。外国語作品の翻訳や著者自身により無償閲覧の認められた現代の作品もある。ジャンルは政治から趣味まで幅広いが、比較的文学作品（時代小説・探偵小説などの娯楽作品も含む）が多い。必ずしも著名な作品が全て揃っているとは言えないが、日本語作品に関しては相当充実してきている（外国語作品の場合、翻訳者の著作権の関係で、まだ数が少ない）。また、マイナーな作品を保存・紹介できる利点もある。作品の電子化は現在進行形で進められており、2011年3月15日、収録作品数が1万点になった[9]。古くは森鷗外、夏目漱石、芥川龍之介など、近くは中島敦（1942年没）、太宰治（1948年没）、林芙美子（1951年没）、宮本百合子（1951年没）、堀辰雄（1953年没）、坂口安吾（1955年没）、高村光太郎（1956年没）、永井荷風（1959年没）、吉川英治（1962年没）などの作品がある。

○少納言（<http://www.kotonoha.gr.jp/shonagon/>）

このサイトでは大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所と文部科学省科学研究費特定領域研究「日本語コーパス」プロジェクトが共同で開発した『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（BCCWJ:Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese）のデータを検索できます。BCCWJには、現代の日本語の書き言葉の全体像を把握できるように集められたサンプルが約1億語収録されています。

2012年3月現在、検索対象となっているのは、以下の11種のデータ、合計約1億500万語です。サンプルは、それぞれ無作為抽出によって抜き出しています。

書籍（1971～2005年、22,058件、約6,270万語）

雑誌（2001～2005年、1,996件、約440万語）

新聞（2001～2005年、1,473件、約140万語）

白書（1976～2005年、1,500件、約490万語）

教科書（2005～2007年、412件、約90万語）

広報紙（2008年、354件、約380万語）

Yahoo!知恵袋（2005年、91,445件、約1,030万語）

Yahoo!ブログ（2008年、52,680件、約1,020万語）

韻文（1980～2005年、252件、約20万語）

法律（1976～2005年、346件、約110万語）

国会会議録（1976～2005年、159件、約510万語）

（）内は、それぞれのデータの発行年、サンプル数、句読点・記号を除いた推定語数です。

2 「やばい」

少納言 143件

青空文庫 1件

「ヤバい」 少納言 164件

青空文庫 0件

検索	前文脈	検索文字列	後文脈	執筆者	生年代	性別	メディアジャンル	タイトル	副題	巻号	編著者等	出版社	出版年
少納言	詳しくは話せないが、結論として、かなり大量に手に入る「ふわ」。	やばい	しろものじゃないだろ「俺がそんなものを売っているか？」	赤川次郎 (著)	1940	男	書籍/9文学	盗みにつ追いつけな	ユアピレス		赤川次郎 著	徳間書店	1987
少納言	が手に持っていたのは、一枚の、手鏡だった。やばい、いや、もう	やばい	とかそういうレベルではない。ばれた。鏡を突きつけられることは言い逃れすることは	鈴木鈴 (著)	1980	男	書籍/9文学	吸血鬼のおしごと		6	鈴木鈴 著	メディアークス 角川書店 (発売)	2003
少納言	華族 (*'、*)、今ね、キてる (*'、*) 嘘。とか	やばい	ね。好きすぎるね				Yahoo! ブログ / Yahoo! サービス / Yahoo! ブログ	Yahoo! ブログ				Yahoo!	2008
少納言	お年玉	やばい	つすかいくらからか貯金はするけど合計金額がやばい.....なん50000				Yahoo! ブログ / 家庭と住まい	Yahoo! ブログ				Yahoo!	2008
少納言でも、ちよつと心配になつて中に現金、いくらあつたっけ.....	やばい	な実家までも隔れるかどうか微妙なところ.....インソングアナウ				Yahoo! ブログ / 生活と文化/活動	Yahoo! ブログ				Yahoo!	2008
青空文庫	のまねまねさんや、うらめしやういめで丹下精をひきええとつてまてば、あたしも	やばい	身体で手からしほらへ、足戸の足を抜いて、いりておきます。ま、あ、これか	林 不忘	1906/3/19		丹下左衛門					青空文庫	1906

例外的に今の方が多く使用されておられるには理由が使用されていなかっただ。

特に限定された意味が自分の人が動いた。

意味① 危険な形容詞 (ヤバい) 謝や車体詞 (ヤバい) (ヤバい)

最近では若者の間で、相つちとして認識されておる。

意味② 「異常な能力や出来事のこと。」

今で昔でも、意味が変化しておる。

意味③ 危険な冠詞や出来

若者言葉として世間で認識されておる。

「ヤバい」の意味は、多(少)の面で使われておる。

変化する言葉遣いへの接し方 学習計画

間時	学習すること	番号	名前
1	「データをもとに」ら 抜き言葉」に対する言葉 遣いの変化をとらえ、学 習の見通しをもつ。	1	ちが使う言葉は更に変化していくと思つた。
2	アンケートや図書館で 見つけた言葉を、図書や 資料により、言葉遣いの 変化についてまとめる。	2	昔と今で、ヒットした件数が大きな差がある 言葉でも、その言葉で大きく意味は変化してい なかつた。また、昔と今で変わらなず使われ られ、意味も変わらなないものもある。
3	言葉遣いの変化に対 する推論をまとめる。	3	社会の変化に伴って、言葉の使われ方が変 化していることはやはり私たちに原因があり、 自分なりの解釈により、新しい言葉、もし くは、昔の言葉に換わる言葉がてきと 思つた。
4	調べた言葉が図書館 の本や資料でどう変 化しているか調べる。	4	調べた言葉をもとに推論をたてたが、その二つの言 葉以外の言葉でも、意味が少なくなつていたりし て、やはり、言葉の意味が変わつていたりした。よ う推論を出した。社会の変化(時代)により、変わ りかへる。
5	調べた言葉や言葉遣い の変化に対する推論を ボスターにまとめる。	5	今で調べた言葉をそれぞれ水のわたり方に て、しかも、それを、色などで分けたりすること 言葉遣いが昔から今に比べて、どのように変化 しているかが分かつた。
6	ボスターセッション を行い、単元を振り 返る。	6	今回のボスターセッションでは、自分の班の発表で は、質問などから、改めて文化が変化してきて 分かつた。他班の発表を聞くことで、色々な言葉 遣いの変化に対する受け止め方が、言葉 遣いが変わつていくことは悪いことばかりではない

のが存、とも思つた。

言	で	に	は	葉	々	③	ま	な	と	②	い	わ	か	く	①
葉	、	言	知	の	大	提	と	と	と	四	る	れ	し	、	私
も	正	葉	、	使	き	言	め	た	も	人	言	て	、	昔	が
私	し	が	、	い	く	で	る	の	に	の	葉	あ	、	図	の
た	い	変	お	方	変	も	こ	か	変	そ	も	る	書	本	あ
ち	本	わ	く	が	化	示	と	や	化	れ	あ	こ	室	の	ま
は	来	る	べ	間	し	し	が	、	し	そ	り	と	で	中	よ
使	の	の	き	違	て	た	で	こ	た	れ	面	が	調	で	く
、	言	も	だ	、	い	通	き	れ	様	が	自	分	べ	使	知
、	葉	よ	、	、	く	り	た	か	子	調	い	か	て	わ	ら
い	を	い	し	い	、	、	、	ら	が	、	と	り	み	れ	な
く	使	こ	か	る	と	私	ど	う	読	た	感	驚	た	る	か
べ	い	と	し	の	私	た	う	す	み	言	じ	い	と	の	、
き	つ	な	、	は	は	ち	る	る	取	葉	た	た	こ	で	た
だ	つ	の	社	良	思	が	る	べ	れ	で	、	、	、	は	言
と	、	で	会	く	う	使	べ	き	た	は	、	ま	、	な	葉
考	新	は	が	な	、	う	き	か	最	様	、	た	最	い	は
え	し	な	変	い	も	言	か	を	終	々	、	そ	近	か	、
る	く	い	わ	の	ち	葉	を	考	的	な	、	の	の	と	現
、	利	か	る	で	ろ	や	考	え	的	な	、	意	小	思	代
、	用	と	の	、	ん	言	え	出	に	観	、	味	説	、	の
、	さ	思	と	正	、	葉	す	な	、	点	、	が	で	、	小
、	れ	う	同	し	本	遣	こ	こ	な	か	、	変	も	い	説
、	、	、	じ	い	来	い	こ	と	せ	ら	、	化	多	た	で
、	い	そ	よ	意	の	は	と	こ	こ	時	、	し	少	、	は
、	く	こ	う	味	言	増	で	う	う	代	、	て	使	し	な

組番 氏名()



